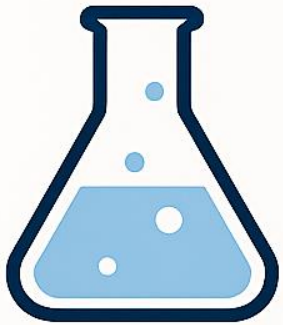
化学物質管理

SDSとリスクアセスメントの活用



厚生労働省

ひと、くらし、みらいのために

小松労働基準監督署

第１部

安全データシート（ＳＤＳ）の活用

第２部

クリエイトシンプルを用いたリスクアセスメント

安全データシート（ＳＤＳ）の活用

安全データシートの入手

販売元や製造元へ連絡し安全データシートを取り寄せましょう。

安全データシートの交付対象物については、譲渡者・提供者に通知義務があります。

作成日 2003年5月6日
改訂日 2010年3月31日

安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	水酸化ナトリウム、(Sodium hydroxide)
製品コード	21B3010
会社名	○○○○株式会社
住所	東京都△△区△△町△丁目△△番地
電話番号	03-1234-5678
緊急時の電話番号	03-1234-5678
FAX番号	03-1234-5678
メールアドレス	
推奨用途及び使用上の制限	化学繊維・紙・パルプ製造用，有機薬品・無機薬品・医薬・農薬・染料中間体製造用，グルタミン酸ソーダ原料，食品製造

2. 危険有害性の要約

GHS分類　分類実施日	H22.2.19、政府向けGHS分類ガイダンス(H21.3版)を使用	
物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	引火性・可燃性ガス	分類対象外
	引火性エアゾール	分類対象外
	酸化性ガス類	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性物質	区分外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
	急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入:粉じん)	分類できない
	急性毒性(吸入:ミスト)	分類対象外

お使いの製品が、どのような法令の規制を受けるのか確認します。

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険有害物（法第57条、施行令第18条別表第9） 名称等を通知すべき危険有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9） リスクアセスメントを実施すべき危険有害物（法第57条の3） 腐食性液体（労働安全衛生規則第326条）
毒物及び劇物取締法	劇物（法第2条別表第2）（政令番号：2-54） 劇物（指定令第2条）（政令番号：68）
海洋汚染防止法	有害液体物質（Y類物質）（施行令別表第1）
船舶安全法	腐食性物質（危規則第3条危険物告示別表第1）
航空法	腐食性物質（施行規則第194条危険物告示別表第1）
労働基準法	疾病化学物質（法第75条第2項、施行規則第35条・別表第1の2第4号1・昭53労告36号）

例示の物では、労働安全衛生法において、「名称等を表示すべき危険有害物」に区分されているため、化学物質管理者の選任、リスクアセスメントの実施が必要になります。

次に、お使いの製品にどのような危険があるのかを確認します。

【危険有害性の見方】

・区分１～４

何らかの危険がある場合に区分１～４が付けられます。数字が若いほど危険性が高くなります。

・分類できない

データ不足等により、危険性が定かでないものになります。作業状況等を勘案して対策の要否を判断しましょう。

・分類対象外、区分外

性状違いや区分に該当しないものになります。

2. 危険有害性の要約

GHS分類　分類実施日	H22.2.19、政府向けGHS分類ガイダンス（H21.3版）を使用	
物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	引火性・可燃性ガス	分類対象外
	引火性エアゾール	分類対象外
	酸化性ガス類	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性物質	区分外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	分類できない
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類できない
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類対象外
	皮膚腐食・刺激性	区分1
	眼に対する重篤な損傷性・刺	区分1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分外
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性（単回ばく	区分1（呼吸器）
	特定標的臓器毒性（反復ばく	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない

汚染時の対応について確認し、製品を使用する作業者に周知しましょう。

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 直ちに医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。 皮膚を流水、シャワーで洗うこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。 直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続ける。 直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 直ちに医師に連絡すること。
予想される急性症状及び遅発性症状	吸入：腐食性。灼熱感、咽頭痛、咳、息苦しさ、息切れ。症状は遅れて現われることがある。 皮膚：腐食性。発赤、痛み、重度の皮膚熱傷、水疱。 眼：腐食性。発赤、痛み、かすみ眼、重度の熱傷。 経口摂取：腐食性。灼熱感、腹痛、ショック/虚脱。
最も重要な兆候及び症状	肺水腫の症状は 2～3 時間経過するまで現われない場合が多く、安静を保たないと悪化する。したがって、安静と経過観察が不可欠である。
応急措置をする者の保護	データなし
医師に対する特別注意事項	データなし

火災時・漏出時については、普段利用することはありませんが、少なくとも化学物質管理者の方は把握しておきましょう。

5. 火災時の措置

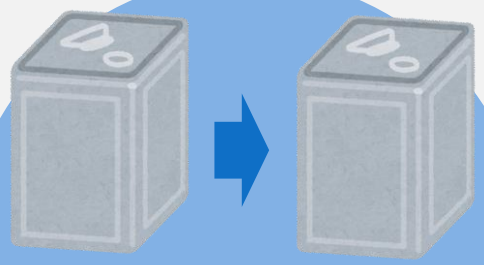
消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状放水
特有の危険有害性	不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び毒性の煙霧を発生するおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離す 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
回収・中和	漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。
封じ込め及び浄化方法・機材	水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。
二次災害の防止策	プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

クリエイトシンプルを用いた
リスクアセスメント

リスクアセスメントはいつ行わなければならない？



対象物を新規に採用・変更したとき

作業方法、手順を新規に採用・変更したとき

対象物の危険性・有害性に変化が生じ、又はそのおそれがあるとき

検索エンジンで　職場のあんぜんサイト　と検索します。

タブの「化学物質」をクリックします

「化学物質のリスクアセスメント実施支援」をクリックします

「リスクアセスメント支援ツール」 をクリックします

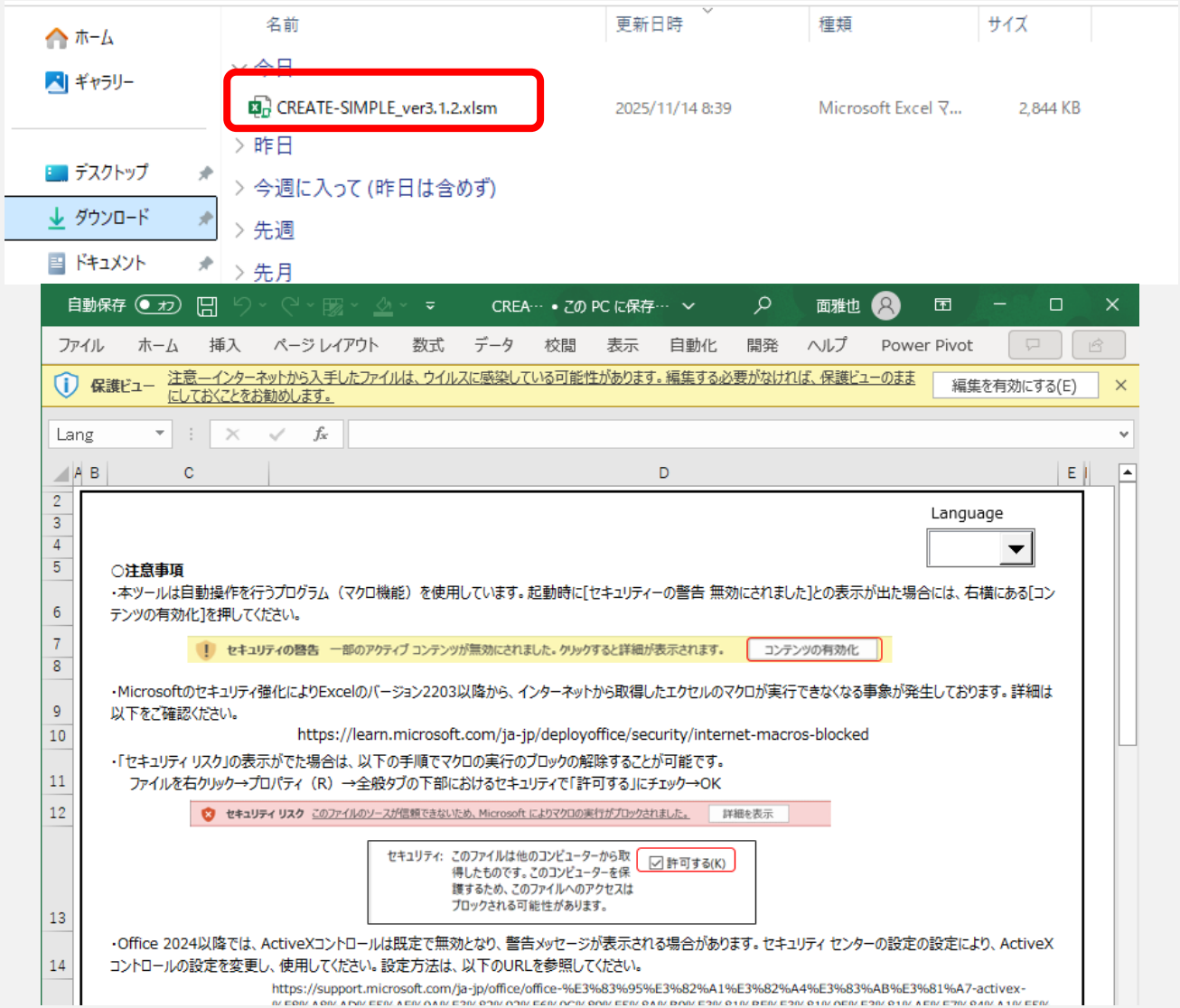
第２部　クリエイトシンプルを活用したリスクアセスメント

＜厚生労働省作成のツール＞

名称（リンクをクリックすると概要説明に移動します）	対象	特色	マニュアル・参考	ツールへのリンク
厚生労働省版コントロール・バンディング	有害性	ILO（国際労働機関）が中小企業向けに作成した作業者の安全管理のための簡易リスクアセスメントツールをわが国で簡易的に利用できるように厚生労働省がWeb システムとして改良、開発したもの。液体・粉体作業用と主に粉じん則に定める粉じん作業用の2つのシステムあり。化学物質の有害性情報、取扱い物質の揮発性・飛散性、取扱量から簡単にリスクの見積もりが可能。 平成31年3月から、「液体・粉体作業」でもハザードレベルとして許容濃度を選択することが可能になりました。 【初級】	• 液体・粉体作業 • 粉じん作業	• 液体・粉体作業 • 粉じん作業
爆発・火災等のリスクアセスメントのためのスクリーニング支援ツール	危険性	化学物質や作業に潜む代表的な危険性やリスクを簡便に「知る」ことに着目した支援ツール。ガイドブックでは、化学物質の危険性に関する基本的な内容に加え、代表的なリスク低減対策についても整理されているため、教科書として危険性に関する基礎を学ぶことが可能。 【初級】	• マニュアル • 入門ガイド 　○ 概要版 　○ 全体版	• 爆発・火災等
作業別モデル対策シート	有害性	主に中小規模事業者など、リスクアセスメントを十分に実施することが難しい事業者を対象に、専門性よりも分かりやすさや簡潔さを優先させ、チェックリスト、危険やその対策を記載したシート。リスクレベルは考慮せずに作業毎に代表的な対策を記載。平成31年3月に粉じん作業を中心に拡充、更新を行った。 【初級】	-	• 作業別モデル対策シート
CREATE-SIMPLE（クリエイト・シンプル）	有害性・危険性	サービス業や試験・研究機関などを含め、あらゆる業種の化学物質取扱事業者に向けた簡易なリスクアセスメントツール。取扱い条件（取扱量、含有率、換気条件、作業時間・頻度、保護具の有無等）から推定したばく露濃度とばく露限界値（またはGHS区分情報）を比較する方法。平成31年3月に、経皮吸収による健康リスクと危険性のリスクを同時に見積もることが可能となりました。 【初級】	• マニュアル • FAQ検索ツール • 設計基準	• CREATE-SIMPLE_ver3.1.2 （2025.7 更新）

「クリエイトシンプル」 をダウンロードします。

第２部　クリエイトシンプルを活用したリスクアセスメント



クリエイトシンプルを開き、マクロを有効化します

セキュリティ リスク　このファイルのソースが信頼できないため、Microsoft によりマクロの実行がブロックされました。　詳細を表示

Language

日本語

○注意事項

・本ツールは自動操作を行うプログラム（マクロ機能）を使用しています。起動時に[セキュリティーの警告 無効にされました]との表示が出た場合には、右横にある[コンテンツの有効化]を押してください。

セキュリティの警告　一部のアクティブ コンテンツが無効にされました。クリックすると詳細が表示されます。　コンテンツの有効化

・Microsoftのセキュリティ強化によりExcelのバージョン2203以降から、インターネットから取得したエクセルのマクロが実行できなくなる事象が発生しております。詳細は以下をご確認ください。

https://learn.microsoft.com/ja-jp/deployoffice/security/internet-macros-blocked

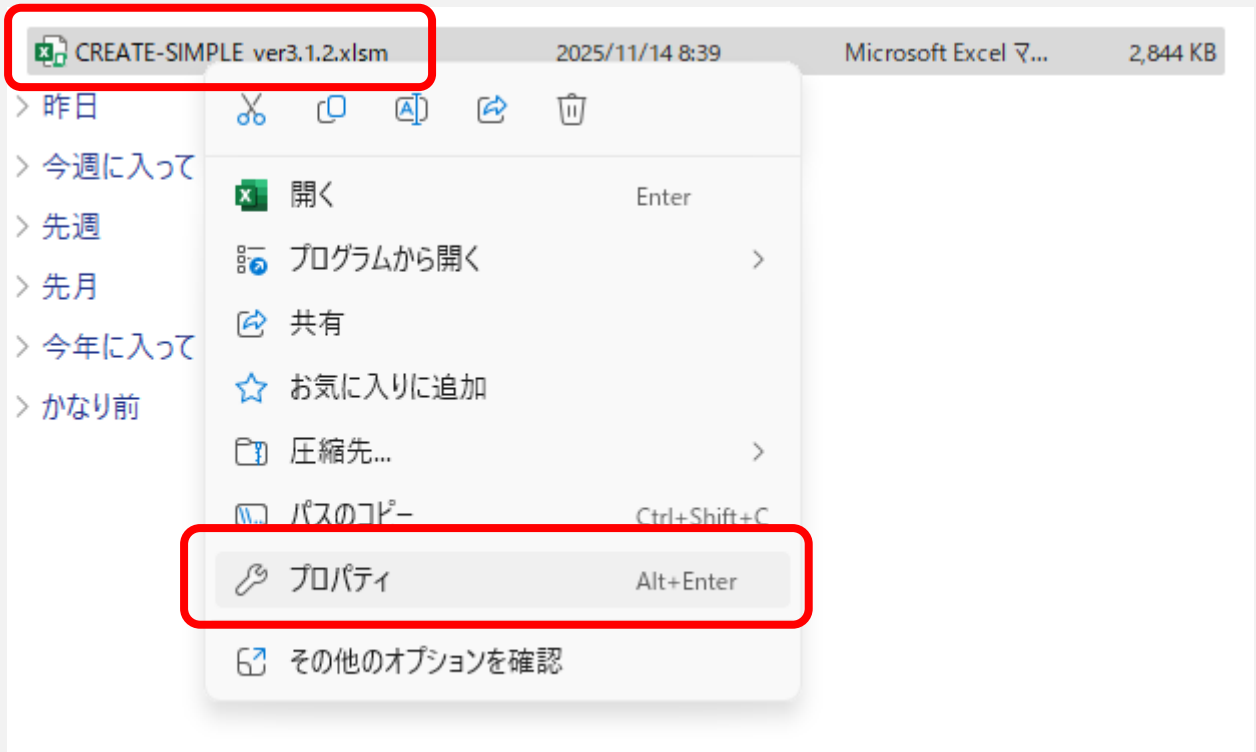
・「セキュリティ リスク」の表示がでた場合は、以下の手順でマクロの実行のブロックの解除することが可能です。
　ファイルを右クリック→プロパティ（R）→全般タブの下部におけるセキュリティで「許可する」にチェック→OK

セキュリティ リスク　このファイルのソースが信頼できないため、Microsoft によりマクロの実行がブロックされました。　詳細を表示

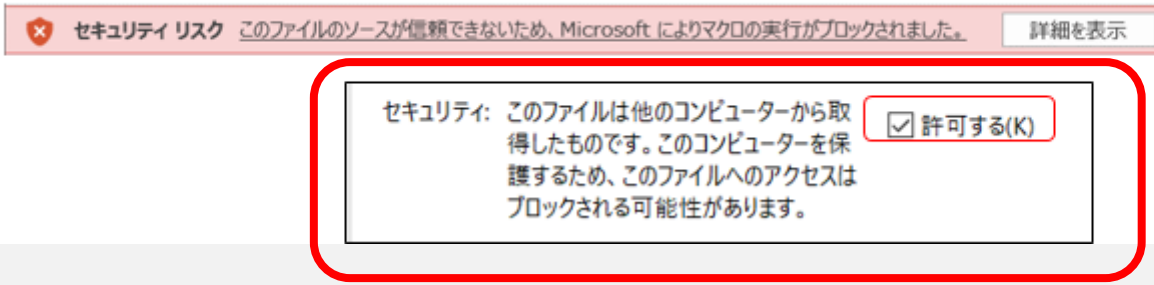
セキュリティ:　このファイルは他のコンピューターから取得したものです。このコンピューターを保護するため、このファイルへのアクセスはブロックされる可能性があります。　☑ 許可する(K)

・Office 2024以降では、ActiveXコントロールは既定で無効となり、警告メッセージが表示される場合があります。セキュリティ センターの設定の設定により、ActiveXコントロールの設定を変更し、使用してください。設定方法は、以下のURLを参照してください。

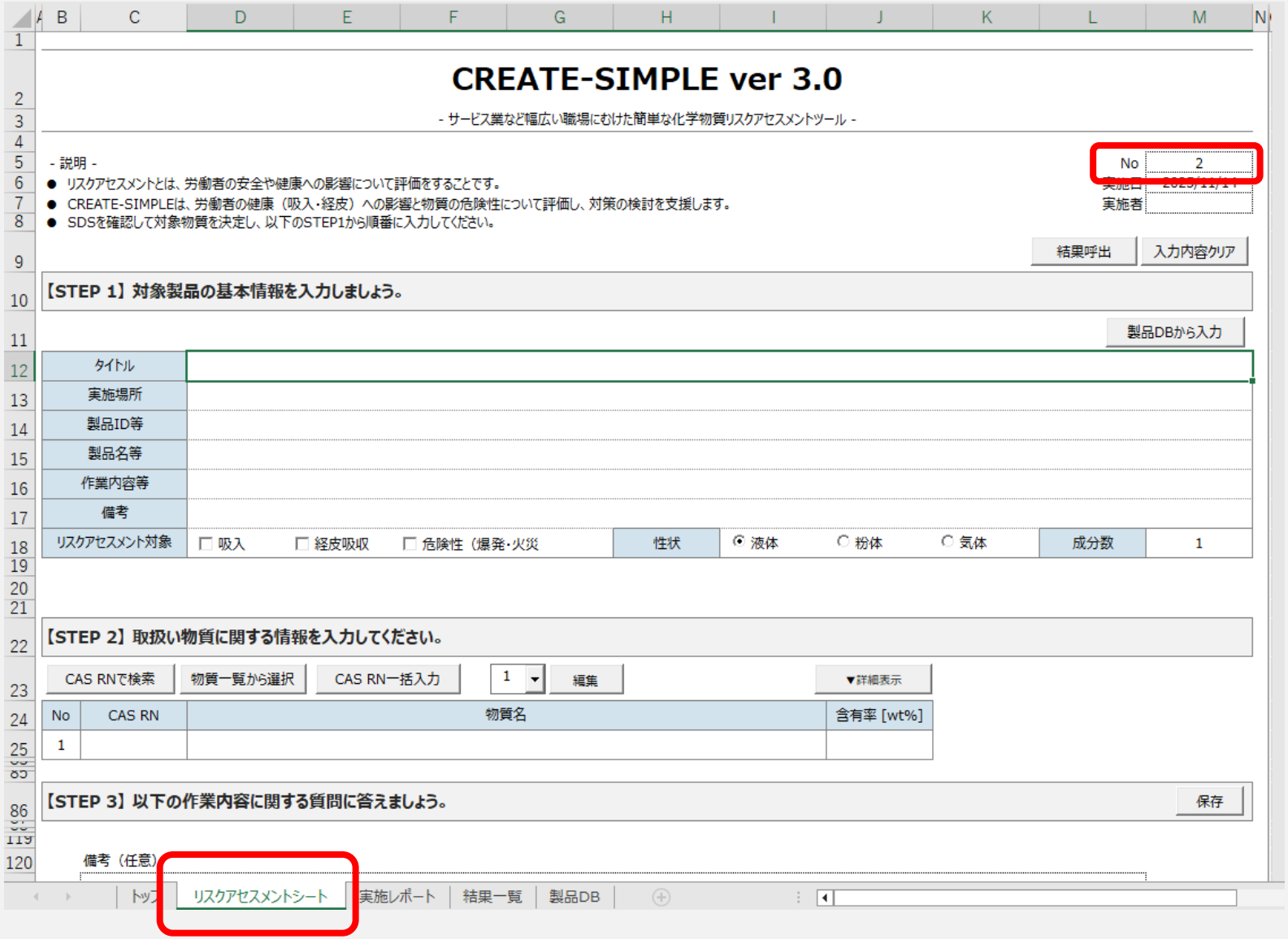
上記のエラーが出る場合



ファイルを右クリック→プロパティ（R）→全般タブの下部におけるセキュリティで「許可する」にチェック→OK



一旦閉じて、ファイルを右クリックし、プロパティを選択
セキュリティを許可してください。



CREATE-SIMPLE ver 3.0

- サービス業など幅広い職場にむけた簡単な化学物質リスクアセスメントツール -

- 説明 -
- リスクアセスメントとは、労働者の安全や健康への影響について評価をすることです。
- CREATE-SIMPLEは、労働者の健康（吸入・経皮）への影響と物質の危険性について評価し、対策の検討を支援します。
- SDSを確認して対象物質を決定し、以下のSTEP1から順番に入力してください。

No 2
実施日 2025/11/11
実施者

結果呼出　入力内容クリア

【STEP 1】対象製品の基本情報を入力しましょう。

製品DBから入力

タイトル	
実施場所	
製品ID等	
製品名等	
作業内容等	
備考	
リスクアセスメント対象	☐ 吸入　☐ 経皮吸収　☐ 危険性（爆発・火災

性状：◉ 液体　○ 粉体　○ 気体　成分数 1

【STEP 2】取扱い物質に関する情報を入力してください。

CAS RNで検索　物質一覧から選択　CAS RN一括入力　1　編集　▼詳細表示

No	CAS RN	物質名	含有率 [wt%]
1			

【STEP 3】以下の作業内容に関する質問に答えましょう。　保存

備考（任意）

トップ　リスクアセスメントシート　実施レポート　結果一覧　製品DB

「リスクアセスメントシート」に入力していきます。

STEP1　対象製品の基本情報を入力しましょう

例　次亜塩素酸ナトリウムと水酸化ナトリウムを含む洗浄液の場合

【STEP 1】対象製品の基本情報を入力しましょう。

製品DBから入力

タイトル	洗浄作業のリスクアセスメント
実施場所	作業室Ａ
製品ID等	○○－○○○○
製品名等	○○○○
作業内容等	洗浄液をタオルにぬらして、機械の汚れをふき取る作業
備考	次亜塩素酸ナトリウム、水酸化ナトリウム含有の洗浄液を使用
リスクアセスメント対象	☑ 吸入　☑ 経皮吸収　☐ 危険性（爆発・火災

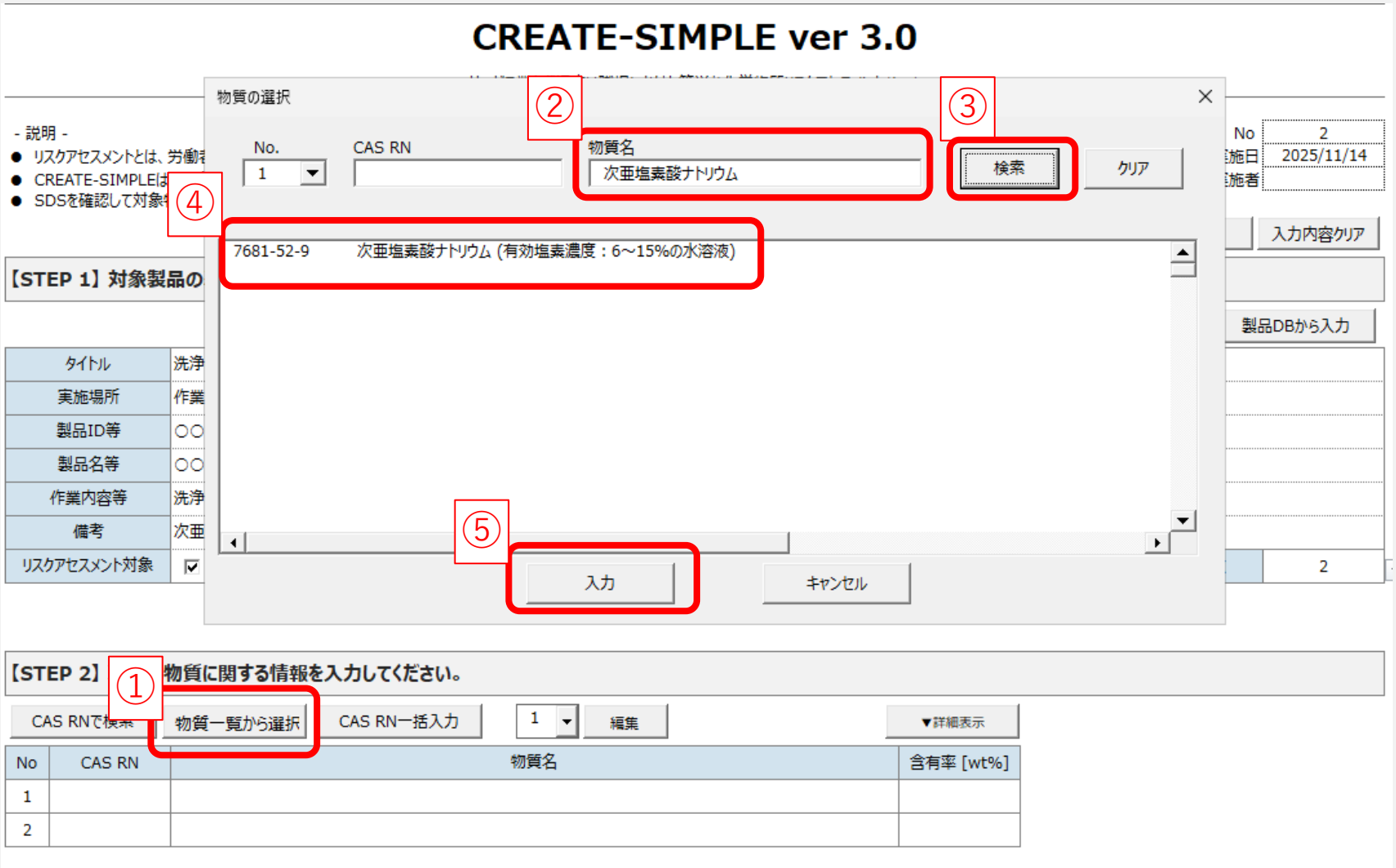
性状：◉ 液体　○ 粉体　○ 気体

成分数：2

吸入はデフォルトでチェックされています。
作業で皮膚接触の可能性がある場合は、経皮吸収も☑
ＳＤＳの情報から、爆発・火災の危険性がある場合は危険性（爆発・火災）に☑

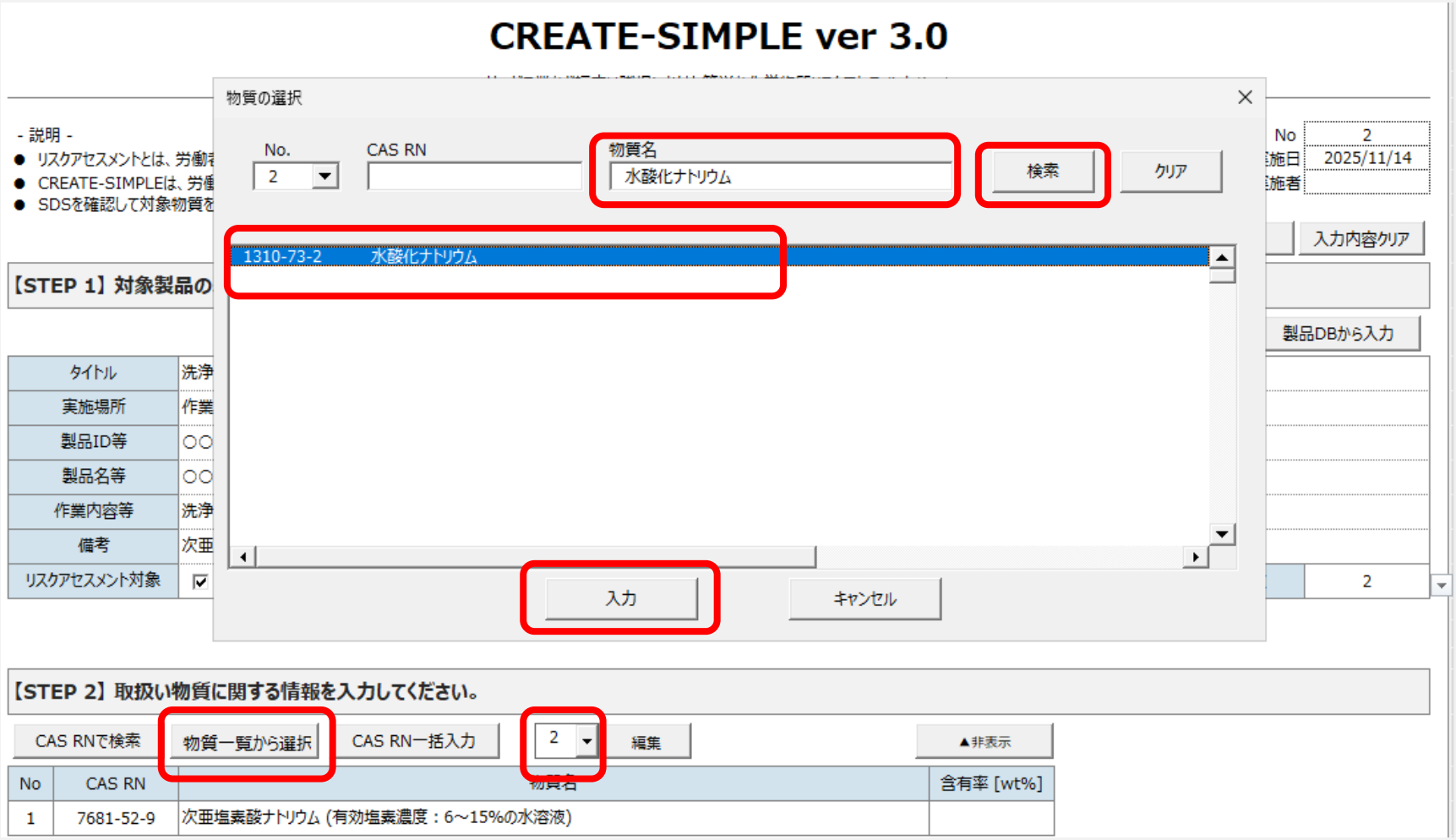
製品の中に複数の対象物がある場合は、成分数を変更します。
今回は次亜塩素酸ナトリウムと水酸化ナトリウムがある前提なので「２」とします。

「STEP1」を入力します。



製品に含有する化学物質（リスクアセスメント対象物）を登録します。

STEP2　取扱い物質に関する情報を入力してください。



製品に含有する化学物質(リスクアセスメント対象物)を登録します。

【STEP 2】取扱い物質に関する情報を入力してください。

CAS RNで検索 | 物質一覧から選択 | CAS RN一括入力 | 2 | 編集 | ▼詳細表示

No	CAS RN	物質名	含有率 [wt%]
1	7681-52-9	次亜塩素酸ナトリウム (有効塩素濃度：6～15%の水溶液)	10

GHS分類	ばく露限界値	物理化学的性状	揮発性／飛散性	備考
皮膚腐食性／刺激性: 区分1 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性: 区分1 特定標的臓器毒性（単回暴露）：区分3		性状: 液体 沸点: 96 ℃ 水溶解度: 29.3 g/100mL 蒸気圧: 17.4 hPa	中揮発性（沸点：50℃以上～150℃未満）	皮膚等障害化学物質

No	CAS RN	物質名	含有率 [wt%]
2	1310-73-2	水酸化ナトリウム	10

GHS分類	ばく露限界値	物理化学的性状	揮発性／飛散性	備考
皮膚腐食性／刺激性: 区分1 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性: 区分1 特定標的臓器毒性（単回暴露）：区分1	日本産業衛生学会 最大許容濃度: 2 mg/m3 ACGIH TLV-C: 2 mg/m3	性状: 粉体 分子量: 39.99711 沸点: 1390 ℃ オクタノール／水分配係数: -3.88 水溶解度: 1111 g/L		皮膚等障害化学物質

含有率を入力します。

ここでは、水酸化ナトリウムが「粉体」となっているので、液体に変更します（※）。
（※実際には変更する必要はありません）

×

No.　2　　CASRN:　1310-73-2　　物質名:　水酸化ナトリウム

性状

◉ 液体　○ 粉体　○ 気体　揮発性／飛散性：低揮発性（沸点：150℃以上）　取扱温度：25 ℃　沸点：1390 ℃

ばく露限界値

８時間濃度基準値		mg/m3	ACGIH TLV-TWA		mg/m3	その他（８時間）		
短時間濃度基準値		mg/m3	ACGIH TLV-STEL		mg/m3	その他（短時間）		
			ACGIH TLV-C	2	mg/m3			
日本産業衛生学会 許容濃度		mg/m3	DFG MAK		mg/m3	使用するばく露限界値	デフォルト	
日本産業衛生学会 最大許容濃度	2	mg/m3	DFG Peak lim		mg/m3			

GHS分類

爆発物		自然発火性液体		急性毒性（経口）		皮膚感作性	
可燃性ガス		自然発火性固体		急性毒性（経皮）		生殖細胞変異原性	
エアゾール		自己発熱性化学品		急性毒性（吸入：ガス）		発がん性	
酸化性ガス		水反応可燃性化学品		急性毒性（吸入：蒸気）		生殖毒性	
高圧ガス		酸化性液体		急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）		特定標的臓器毒性（単回暴露）	区分1
引火性液体		酸化性固体		皮膚腐食性／刺激性	区分1	特定標的臓器毒性（反復暴露）	
可燃性固体		有機過酸化物		眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分1	誤えん有害性	
自己反応性化学品		金属腐食性化学品		呼吸器感作性			
		鈍性化爆発物					

物理化学的性状

分子量	39.99711	水溶解度	1111	g/L
オクタノール／水分配係数	-3.88	蒸気圧		
引火点				

入力　　キャンセル

性状の液体にチェックし、取り扱い温度を入力します。

【STEP 2】取扱い物質に関する情報を入力してください。

CAS RNで検索　物質一覧から選択　CAS RN一括入力　2　編集　▼詳細表示

No	CAS RN	物質名	含有率 [wt%]
1	7681-52-9	次亜塩素酸ナトリウム (有効塩素濃度：6～15%の水溶液)	10

GHS分類	ばく露限界値	物理化学的性状	揮発性／飛散性	備考
皮膚腐食性／刺激性: 区分1 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性: 区分1 特定標的臓器毒性（単回暴露）：区分3		性状: 液体 沸点: 96 ℃ 水溶解度: 29.3 g/100mL 蒸気圧: 17.4 hPa	中揮発性（沸点：50℃以上～150℃未満）	皮膚等障害化学物質

No	CAS RN	物質名	含有率 [wt%]
2	1310-73-2	水酸化ナトリウム	10

GHS分類	ばく露限界値	物理化学的性状	揮発性／飛散性	備考
皮膚腐食性／刺激性: 区分1 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性: 区分1 特定標的臓器毒性（単回暴露）：区分1	日本産業衛生学会 最大許容濃度: 2 mg/m3 ACGIH TLV-C: 2 mg/m3	性状: 液体 分子量: 39.99711 沸点: 1390 ℃ オクタノール／水分配係数: -3.88 水溶解度: 1111 g/L	低揮発性（沸点：150℃以上）	皮膚等障害化学物質

性状が液体に変更されました。

STEP3　以下の作業内容に関する質問に答えましょう。

【STEP 3】以下の作業内容に関する質問に答えましょう。　保存

Q1　製品の取扱量はどのくらいですか。

微量　（10mL以上～100mL未満）

Q2　スプレー作業など空気中に飛散しやすい作業を行っていますか。

いいえ

スプレー、ミスト、粉体塗装、研磨など

Q3　化学物質を塗布する合計面積は1m2以上ですか。

はい

Q4　作業場の換気状況はどのくらいですか。

換気レベルB（全体換気）

Q5　１日あたりの化学物質の作業時間（ばく露時間）はどのくらいですか。

1時間超～2時間以下

Q6　化学物質の取り扱い頻度はどのくらいですか。

Q7　作業内容のばく露濃度の変動

Q8　化学物質が皮膚に接触する面

Q9　取り扱う化学物質に適した手袋

Q10　手袋の適正な使用方法に関す

備考（任意）

換気状況	補足説明、事例
特に換気がない部屋	・換気のない密閉された部屋でも、通常人がいる環境であれば最低限の自然換気はあると考えられる。
全体換気	・窓やドアが開いている部屋。 ・一般的な換気扇のある部屋（例：台所用小型換気扇）。 ・ビル内で全体空調がある場合（例：中央管理区分式の空調）。一般に一定程度の外気取入れがある。 ・大空間の屋内の一部（例：ショッピングセンターや大きな作業場の一隅など）。
工業的な全体換気、屋外作業	・工業的な全体換気装置のある部屋（換気扇や排風機）。 ・屋外作業。
外付け式局所排気装置	・化学物質の発散源近くで上方向や横方向から吸引する場合（例：調理場の上部吸引フード） ・プッシュプル型換気装置
囲い式局所排気装置	・実験室のドラフトチャンバーの中に化学物質を置いて作業する場合など
密閉容器内での取扱い	・密閉設備（漏れがないこと） ・グローブボックス（密閉型作業箱）の中に化学物質を置いて作業する場合など

STEP3を入力します

【STEP 3】以下の作業内容に関する質問に答えましょう。　保存

Q1　製品の取扱量はどのくらいですか。

微量　（10mL以上～100mL未満）

Q2　スプレー作業など空気中に飛散しやすい作業を行っていますか。

いいえ

Q3　化学物質を塗布する合計面積は1m2以上ですか。

はい

Q4　作業場の換気状況はどのくらいですか。

換気レベルB（全体換気）

Q5　１日あたりの化学物質の作業時間（ばく露時間）はどのくらいですか。

1時間超～2時間以下

準備・片付け中に、ばく露する恐れがある場合はその時間を含む

Q6　化学物質の取り扱い頻度はどのくらいですか。

週1回以上　➡　5　日／週

Q7　作業内容のばく露濃度の変動の大きさはどのくらいですか。

ばく露濃度の変動が大きい作業

作業期間におけるばく露濃度の変動の大きさを選択する。
多くの作業が、ばく露濃度の変動が小さい作業に該当する。
・ばく露濃度の変動が小さい作業
例）製造ラインにおける製品の自動洗浄
例）性能等が確保された局所排気装置が設置されている作業場における洗浄作業

・ばく露の変動が大きい作業
例）局所排気装置が設置されていない、または局所排気装置の性能等が確保されていない作業場における化学品の投入・軽量、手作業による洗浄作業

Q8　化学物質が皮膚に接触する面積はどれぐらいですか。

両手及び手首

Q9　取り扱う化学物質に適した手袋を着用していますか。

耐透過性･耐浸透性の手袋の着用している

Q10　手袋の適正な使用方法に関する教育は行っていますか。

教育や訓練を行っていない

備考（任意）

STEP3を入力します

STEP4　リスクの判定

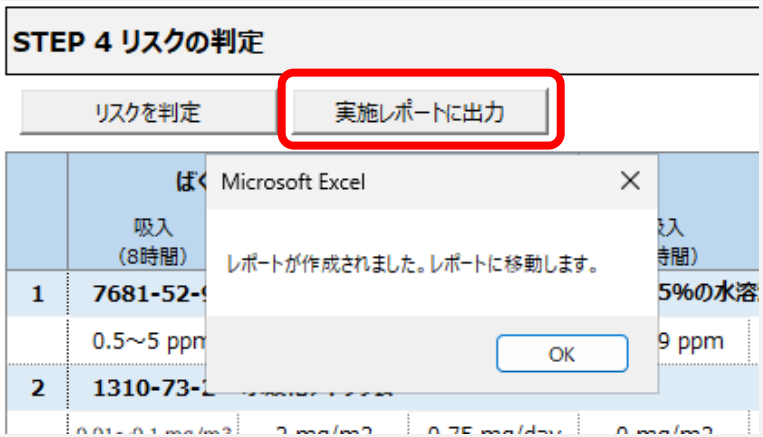
STEP 4 リスクの判定

リスクを判定　実施レポートに出力

	ばく露限界値（管理目標濃度）			推定ばく露濃度			リスクレベル				
	吸入（8時間）	吸入（短時間）	経皮吸収	吸入（8時間）	吸入（短時間）	経皮吸収	吸入（8時間）	吸入（短時間）	経皮吸収	合計（吸入＋経皮）	危険性（爆発・火災等）
1	7681-52-9　次亜塩素酸ナトリウム（有効塩素濃度：6～15%の水溶液）						皮膚等障害化学物質、リスクレベルS				
	0.5～5 ppm	15 ppm	-	0.9～9 ppm	36 ppm	-	Ⅲ	Ⅲ	-	Ⅲ	-
2	1310-73-2　水酸化ナトリウム						皮膚等障害化学物質、リスクレベルS				
	0.01～0.1 mg/m3	2 mg/m3	0.75 mg/day	0 mg/m3	0 mg/m3	130 mg/day	Ⅰ	Ⅰ	Ⅳ	Ⅳ	-

判定結果

有害性	リスクアセスメントのための測定等を実施するか、リスクを下げる対策を実施を実施しましょう。 皮膚障害等防止用保護具の選定マニュアルに従い、適切な皮膚障害等防止用保護具を着用しましょう。
危険性（爆発・火災等）	



リスクを判定し
結果を実施レポートに出力します。

リスクアセスメント実施レポート

- 説明 -
- リスクアセスメントシートで実施した結果が表示されます。
- このシートでリスク低減措置の内容を検討し、労働者に周知を行いましょう。

No	2
実施日	2025/11/14
実施者	

PDFに保存　結果呼出　入力内容クリア

基本情報

タイトル	洗浄作業のリスクアセスメント
実施場所	作業室Ａ
製品ID等	○○－○○○○
製品名等	○○○○
作業内容等	洗浄液をタオルにぬらして、機械の汚れをふき取る作業
備考	次亜塩素酸ナトリウム、水酸化ナトリウム含有の洗浄液を使用

No	CAS RN	物質名	含有率 [wt%]
1	7681-52-9	次亜塩素酸ナトリウム (有効塩素濃度：6～15%の水溶液)	10
2	1310-73-2	水酸化ナトリウム	10

リスク低減対策の検討

※「リスク低減対策の検討」のQ1～Q15の選択肢を変更し、【再度リスクを判定】をクリックすることによって、リスク低減対策後の結果が表示されます。

リスクの再判定

	設問	現状	対策後	リスク低減対策の検討
吸入	Q1. 取扱量	微量　(10mL以上～100mL未満)		微量　(10mL以上～100mL未満)
	Q2. スプレー作業の有無	いいえ		いいえ
	Q3. .塗布面積1m2超	はい		はい
	Q4. 換気レベル	換気レベルB（全体換気）		換気レベルB（全体換気）
	制御風速の確認			
	Q5. 作業時間	1時間超～2時間以下		1時間超～2時間以下

トップ　リスクアセスメントシート　実施レポート　結果一覧　製品DB

事業場で実行可能な低減対策を検討し、実行します。

リスク低減対策の検討

※「リスク低減対策の検討」のQ1～Q15の選択肢を変更し、【再度リスクを判定】をクリックすることによって、リスク低減対策後の結果が表示されます。

リスクの再判定

	設問	現状	対策後	リスク低減対策の検討
吸入	Q1. 取扱量	微量 （10mL以上～100mL未満）	微量 （10mL以上～100mL未満）	微量 （10mL以上～100mL未満）
	Q2. スプレー作業の有無	いいえ	いいえ	いいえ
	Q3. .塗布面積1m2超	はい	はい	はい
	Q4. 換気レベル	換気レベルB（全体換気）	換気レベルB（全体換気）	換気レベルB（全体換気）
	制御風速の確認			
	Q5. 作業時間	1時間超～2時間以下	1時間超～2時間以下	1時間超～2時間以下
	Q6. 作業頻度	5日／週	5日／週	週1回以上　5　日／週
	Q7. ばく露の変動の大きさ	ばく露濃度の変動が小さい作業	ばく露濃度の変動が小さい作業	ばく露濃度の変動が小さい作業
	[オプション] 呼吸用保護具			
	フィットテストの方法			
経皮吸収	Q8. 接触面積	両手及び手首	両手及び手首	両手及び手首
	Q9. 化学防護手袋	耐透過性・耐浸透性の手袋の着用している	耐透過性・耐浸透性の手袋の着用している	耐透過性・耐浸透性の手袋の着用している
	Q10. 保護具の教育	教育や訓練を行っていない	基本的な教育や訓練を行っている	基本的な教育や訓練を行っている

備考（任意）

ここでは、教育・訓練を行うこととし、リスクの再判定

再判定後のリスクレベルが出力されます。

リスクの再判定結果

	ばく露限界値（管理目標濃度）			推定ばく露濃度			リスクレベル				
	吸入（8時間）	吸入（短時間）	経皮吸収	吸入（8時間）	吸入（短時間）	経皮吸収	吸入（8時間）	吸入（短時間）	経皮吸収	合計（吸入＋経皮）	危険性（爆発・火災等）
1	7681-52-9　次亜塩素酸ナトリウム（有効塩素濃度：6～15%の水溶液）						皮膚等障害化学物質、リスクレベルS				
現状	0.5～5 ppm	15 ppm	-	0.9～9 ppm	36 ppm	-	Ⅲ	Ⅲ	-	Ⅲ	-
対策後	0.5～5 ppm	15 ppm	-	0.9～9 ppm	36 ppm	-	Ⅲ	Ⅲ	-	Ⅲ	-
2	1310-73-2　水酸化ナトリウム						皮膚等障害化学物質、リスクレベルS				
現状	0.01～0.1 mg/m3	2 mg/m3	0.75 mg/day	0 mg/m3	0 mg/m3	130 mg/day	Ⅰ	Ⅰ	Ⅳ	Ⅳ	-
対策後	0.01～0.1 mg/m3	2 mg/m3	0.75 mg/day	0 mg/m3	0 mg/m3	65.1 mg/day	Ⅰ	Ⅰ	Ⅳ	Ⅳ	-

有害性	リスクアセスメントのための測定等を実施するか、リスクを下げる対策を実施を実施しましょう。 皮膚障害等防止用保護具の選定マニュアルに従い、適切な皮膚障害等防止用保護具を着用しましょう。
危険性（爆発・火災等）	

リスクレベルが高いもの（Ⅲ・Ⅳ）については、
更なる低減対策を検討し、実行してください。

リスクレベルがⅡ－Ｂとなった場合は、確認測定の実施が推奨されます。
確認測定により実測値が上記の推定ばく露濃度より低ければ、低減対策の
優先度は低くなります。

第２部　クリエイトシンプルを活用したリスクアセスメント

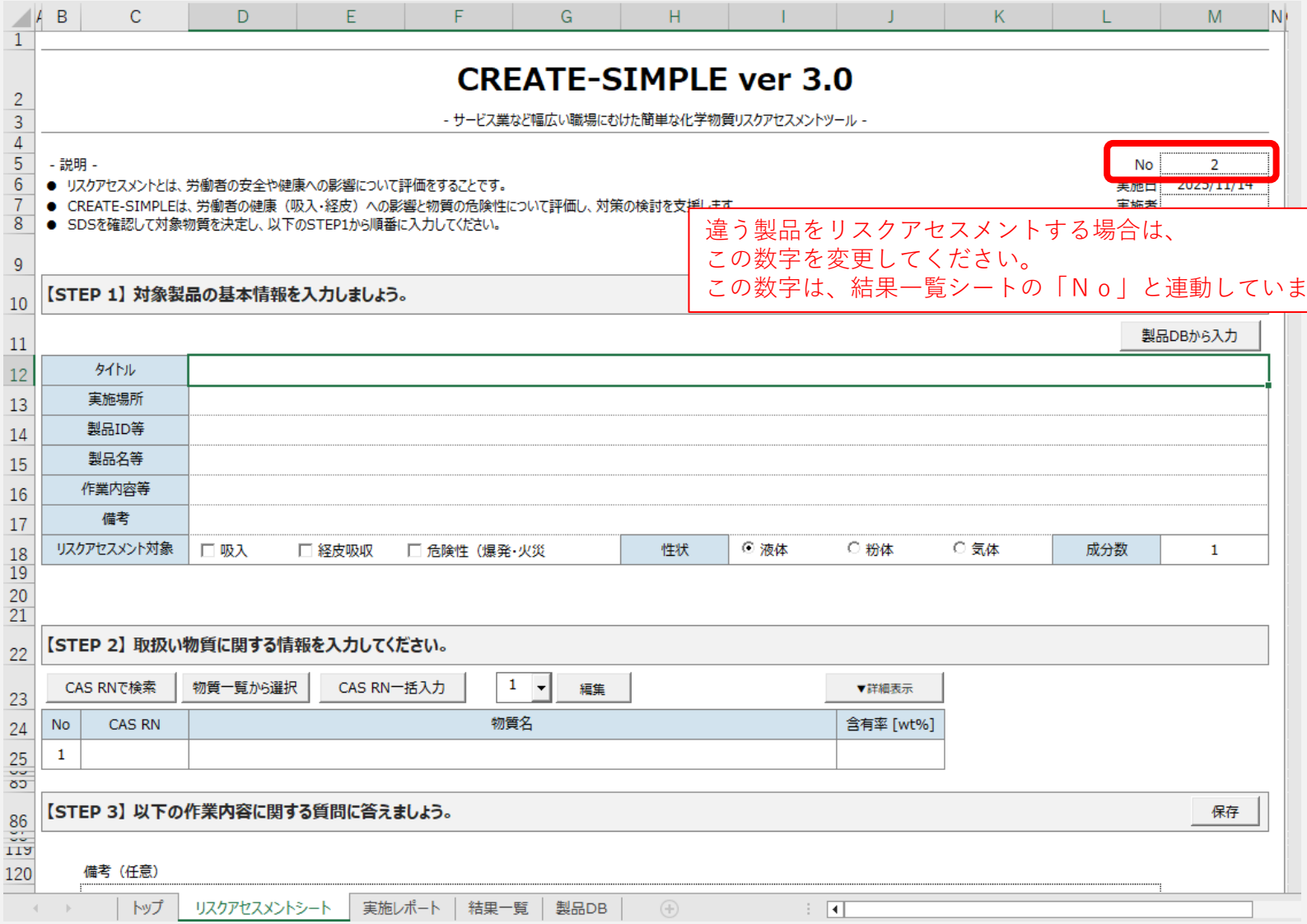
出力する結果をリストから出力後「リスクアセスメントシートに出力」または「実施レポートに出力」のボタンを押してください。

リスクアセスメントシートに出力　実施レポートに出力

				基本情報					成分情報			
No.	実施日	実施者	タイトル	実施場所	製品ID等	製品名等	作業内容等	備考	No.	CAS RN	物質名	含有 [wt%
1	2024/6/28	XXX	製品●●のリスクアセスメント	作業室A	P005-000	製品●●	製品●●をドラムから缶に小分けする作業	A事業所にて使用	1	98-00-0	フルフリルアルコール	90
1	2024/6/28	XXX	製品●●のリスクアセスメント	作業室A	P005-000	製品●●	製品●●をドラムから缶に小分けする作業	A事業所にて使用	2	98-01-1	フルフラール	10
2	2025/11/14		洗浄作業のリスクアセスメント	作業室Ａ	○○－○○○○	○○○○	洗浄液をタオルにぬらして、機械の汚れをふき取る作業	次亜塩素酸ナトリウム、水酸化ナトリウム含有の洗浄液を使用	1	7681-52-9	次亜塩素酸ナトリウム（有効塩素濃度：6～15%の水溶液）	10
2	2025/11/14		洗浄作業のリスクアセスメント	作業室Ａ	○○－○○○○	○○○○	洗浄液をタオルにぬらして、機械の汚れをふき取る作業	次亜塩素酸ナトリウム、水酸化ナトリウム含有の洗浄液を使用	2	1310-73-2	水酸化ナトリウム	10

トップ　リスクアセスメントシート　実施レポート　結果一覧　製品DB

第２部　クリエイトシンプルを活用したリスクアセスメント



参　考　　厚生労働省より　業種・作業別マニュアル　が公開されています。

食料品製造業における製造・加工設備の洗浄作業　化学物質管理マニュアル

化学物質管理者		保護具着用管理責任者		作業者（又は職長等）	

作業情報

作業内容		化学品名・メーカー名		成分名	※裏表紙のチェック欄に✓
作業期間（任意）		備考（任意）			

化学物質取扱時の留意点

危険性（火災爆発に関連）	－	リスク低減対策	防護手袋　サイドシールド付き保護眼鏡　フェイスシールド　部分防護服（前掛け）　アームカバー　防護靴
有害性（健康有害性に関連）	○吸入すると有害 ○接触により皮膚及び眼への損傷やアレルギー性皮膚反応を起こすおそれ ○長期にわたる吸入や皮膚からのばく露により、呼吸器、腸器、中枢神経系への障害のおそれがある。	保護具の留意点	○皮膚等障害化学物質を含む場合、保護手袋、保護衣、保護靴は不浸透性のものを選択する。 ○手袋着用前には、傷・穴あき確認を実施する。 ○手袋を脱ぐ際には、手袋に付着する化学物質が身体に付着しないよう、化学物質の付着面が内側になるように脱ぐ。
緊急時の対応	○皮膚に付着した場合はすぐに拭き取り、石鹸水及び水で洗い流す。炎症等が出た場合、速やかに医師の診断を受ける。 ○眼に入った場合直ちに清浄な流水で数分間洗眼した後、医師の処置を受ける。なお強アルカリ性の場合は、少なくとも15分間洗眼する。	実施すべき事項／留意点	○SDSやpH試験紙等で洗浄剤のpHをあらかじめ確認する。 ○洗浄剤の小分け容器には、「洗浄剤の名称」「人体に及ぼす作用」「希釈倍率」「作成日」「混ぜるな危険（必要に応じて）」を貼付する。 ○足元に洗浄剤を撒く場合、滑って転倒し化学物質が身体に付着しないように注意する。 ○作業中は換気扇を作動させる。 ○作業の終了後は、すぐに手を洗う。

リスク低減措置

作業内容		吸入対策	保護手袋	保護眼鏡	保護衣・保護靴	備考
Ⓐ	希釈・小分け	－	ニトリルゴム製の防護手袋を使用する。	サイドシールド付き保護眼鏡を着用する。 ただしアルカリ性の洗浄剤を使用する場合は、フェイスシールドを着用する。	アルカリ性の洗浄剤を使用する場合は、防水性の部分防護服（前掛け等）、アームカバーを使用する。	希釈時は水しぶきが上がらないように水面近くでゆっくり投入する。 小分け容器に移す際は漏斗を使用する。 希釈後の洗浄剤タンクや容器は、低い位置で保管する。
Ⓑ	部品等の手洗い	－	ニトリルゴム製の防護手袋を使用する。 なお洗浄剤に「2-アミノエタノール」が含まれる場合は、240分以内に手袋を交換する。	サイドシールド付き保護眼鏡を着用する。	アルカリ性の洗浄剤を使用する場合は、防水性の部分防護服（前掛け等）を着用する。	保護手袋に付着した洗浄剤が身体に付着しないよう留意する。 付着が避けられない場合は、付着部位を覆う保護衣を着用する。
Ⓒ	フォームガンによる洗浄	－	ニトリルゴム製の防護手袋を使用する。	サイドシールド付き保護眼鏡を着用する。	アルカリ性の洗浄剤を使用する場合は、防水性の防護靴を着用する。 なお、身体より高い位置を洗浄する場合は、付着可能性のある部位を覆う防水性の部分防護服、アームカバーを使用する。	－
従事する作業		選択したものを記載	選択したものを記載	選択したものを記載	選択したものを記載	選択したものを記載
※Ⓐ･Ⓑ･Ⓒを記載		※化学物質管理者又は保護具着用管理責任者が記入	※保護具着用管理責任者が記入	※保護具着用管理責任者が記入	※保護具着用管理責任者が記入	※保護具着用管理責任者が記入

記録欄

異常の記録	※保護具の着用忘れ、こぼした、眼に入ったなどの異常や、応急処置の内容等の記録を記載	その他記録	

詳細は「化学物質リスクアセスメントについて」で検索

参　考

無料

中小規模事業場のみなさまへ

労働安全衛生法に基づく
化学物質管理の相談窓口

ラベル・ＳＤＳ・リスクアセスメントをはじめ、政省令改正による「新たな化学物質規制」に関する内容などのご質問にお答えします。

労働安全衛生法の関係政省令改正の主な概要

- ◇ 化学物質を製造・取扱う労働者への適切な保護具の使用
- ◇ ラベル・SDS・リスクアセスメント義務対象物質の大幅増加
- ◇ 労働者がばく露される程度を濃度基準値以下※1または最小限度※2にする義務
- ◇ 自律的な管理に向けた実施体制の確立

※1：濃度基準値設定物質が対象　※2：※1以外のリスクアセスメント対象物が対象

よくあるお問合せ

ラベル・SDS 関係	リスクアセスメント 関係	政省令改正 関係
・ラベルやSDSが必要になるのはどんな化学物質や化学品ですか	・化学物質のリスクアセスメントはどのように行えばいいですか	・新たな化学物質規制にはどのように対応すればいいですか
・ラベルやSDSの内容が分からないのですが	・「CREATE-SIMPLE」の使用方法	・特殊健康診断の実施頻度緩和とは何ですか
・秘密保持の場合の対応について	・リスクを低減するためにはどのような措置を講ずるべきか知りたい	・濃度基準値以下の確認方法は

開設期間　令和7年5月19日～令和8年3月18日
受付時間　月～金 10:00～17:00
（12:00～13:00を除く ／ 土日祝日、国民の休日、年末年始を除く）

☎ 050－5577－4862

テクノヒルHPからお問合せフォームをご利用いただけます。 テクノヒル 相談窓口 検索 と検索ください。

＊ 相談は無料ですが、通話料がかかります。
＊ メールでのお問い合わせについては、内容に応じて電話でご回答になる場合がございますのでご了承ください。

厚生労働省　令和７年度 厚生労働省「化学物質管理に係る相談を通じた周知事業」
【事務局】テクノヒル株式会社 化学物質管理部門　https://technohill.co.jp/